



高蓋小運動会

問 バス廃止路のアフターケアは

答 公共交通対策会議で検討

Q 永野循環線バスが10月より廃止されるが、地元へのアンケート結果とアフターケアは万全か。

A 町長
中学生が通学に利用しており、代替処置のため廃止を1年延期した。自治振興会と意見交換を

し、反対はなかったが、不安が残るが新たな交通体系で運行してほしい。新年度へ向け公共交通対策会議で検討している。

Q 神石小学校、神石中学校共同の給食施設の整備を要請したが検討結果は。

A 教育長
三和共同調理場から運搬の場合と、神石小、中どちらかの調理場を改修した場合のメリット、デメリットを調査している。三和調理場から二幸小学校へ運搬する温度のデータによると、調理・運搬時間が長いと温度は



久保田龍泉議員

下がる。基本的には小、中学校共同で調理し、近いところで運搬ができることである。耐震調査が終った段階で早急に示す。

Q 鳥獣駆除資格取得への補助制度は。

A 町長
試験場への送迎バスなど検討する。捕獲隊の結成を視野に対応したい。

Q 活性化情報センターの利用しない端末のモニターは処分すべきではないか。

A 企画課長
モニターは要望があれば撤去している。活性化情報センターから職員は引き上げたが、利用はしており、施設が新しいので今後どうするか検討する。



プラチナストーリー事業（ニュースペーパー公演）

問 町独自の子育て支援の拡充を

答 最優先で町独自の拡充を実施

Q 少子化対策は喫緊の課題である。町独自の思い切った子育て支援・心援を実施すべきだ。乳幼児医療費の助成を中学校卒業まで拡充すべきでは。

A 町長
少子化対策は、あらゆる手だてをして取り組

まねばならない。乳幼児医療費の助成は就学前までであるが、それを引き上げること検討する。町独自の取り組みとして実施する。

Q 妊産婦健診の助成を思い切って10回に拡充すべきだ。

A 町長
昨年2回から5回に増やしたが、妊婦の方の子どもの誕生までのご苦労を考えると、健診の助成も指摘のごとく増やすよう検討する。

Q 保育所や学童保育・放課後子ども教室



寄定秀幸議員

は、保護者の就労形態を十分に配慮し、延長保育や土曜日の午後の受け入れなど柔軟な対応が必要では。

A 町長
対象者があれば即、環境整備すべきだ。そうした環境整備をするための予算措置をする。

Q 実効性のある鳥獣害対策を実施すべきでは。

A 町長
鳥獣被害対策実施隊

を設置する。電気柵などの補助は継続する。箱罠・くくり罠の補助は9月補正で対応。狩猟免許取得促進への助成は検討する。

Q 悪臭防止法に基づき、臭気指数規制を早急に実施すべきでは。

A 町長
立ち入り調査を実施したが、抜本的改善ができない。臭気指数規制を導入し厳しく指導する。



渓谷コンサート（永野）

問 学校統合・三和小学校建設計画は

答 23年度に建設をめざす

Q 各学校区への基本方針説明会後での、方針の変更は。

A 教育長
児童生徒数の推移・保護者理解により、統合年度はずれるが、継続して協議をする。

Q 三和小学校建設計画は。

A 教育長
通学面・小・中連携の教育効果を最大限生かすため、小・中近い事が最良と思う。三和小学校建設は22年度までに行い、23年度、高蓋小・二幸小を統合する説明をしてい



丸山達夫議員

る。建設については多数の意見を整理して設置者と協議をする。

Q 三和小学校建設への町長の考えは。

A 町長
教育委員会の指針に沿っていきたい。学校教育は、教育委員会の考え

る事で、設置者が指針に対して意見を言う気はない。

しかし、財源の面で同年度、大きな事業が生じ財源不足の場合は、教育委員会の年次計画も、先延べする事もあるが、柔軟に対応する。財源が一番大きな要素となる。

問 「水源の町づくり」条例化を急げ

答 将来的に検討

Q 事故米問題で揺れているように、輸入食糧に依存することの危険性が明らかになった今こそ、地産地消と食育をさらに推進する必要がある。

大事な子ども達に食糧の背景を通しての食育を勧めるとともに、学校給

食での地元産米使用に加え、給食全般を考える時がきた。

また、次代へと持続可能な農村環境を確保するためには、生産物や人にも優しい農業を推進し、個々の農家が安心して生活できる農村が、地域や集落を守るのでは。

農村の持つ多面的機能を生かして、付加価値をつけ、都市住民との交流をすすめては。

そこで、町全体を水源の里と捉えて、「食と農による水源の町づくり条例」を制定し、将来に希望の持てる町づくりを展開してはどうか。



赤木健二議員

A 町長
食の持つ意味がよくわかるので、可能なものは地元産に切り替える事も検討する。

A 副町長
条例化を将来はしたいが、もう少し準備が必要だ。

基に、地産地消推進計画、食育推進計画、有機農業推進計画と、順を追って作り上げたい。

A 教育長
給食や食材を通して、子どもたちの健康の推進に生かせるように計画に盛り込みたい。



平和学習発表（三和中）